

脊髄髄内腫瘍術後遺残疼痛 のバイオマーカー探索

座長

河野 崇 先生
高知大学医学部
麻酔科学・集中治療医学講座 教授

演者

辻 収彦 先生
東邦大学医学部整形外科学講座
大橋病院 講師

日時 ▶ 2025年4月26日 (土)

12:40 ~ 13:40

会場 ▶ **第2会場**

熊本市国際交流会館 4F 第3会議室
〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-18

- 本セミナーは整理券制ではございません。
- 現地開催のみ。

脊髄髄内腫瘍術後遺残疼痛のバイオマーカー探索

医療技術の発達により運動器疾患に対する手術の治療成績は向上している。しかし、脊髄髄内腫瘍の手術治療後は神経脱落症状のみならず、異常知覚やしびれを伴った疼痛により患者の日常生活動作は著しく障害されることをしばしば経験する。演者はこれまでに100件超の髄内腫瘍手術を執刀してきたが、術後遺残症状（疼痛・しびれ）は難治性である。

これまでに脊髄髄内腫瘍術後患者85例での患者立脚型評価により、NPSI10点以上の術後痛を有する割合は56%であり、特に知覚障害/異常感覚のサブスコアが有意に高く、病理組織毎の評価では星細胞腫で灼熱痛、血管系腫瘍では発作痛が強いことを報告しているが、術後疼痛の客観的なバイオマーカーは未だ存在しないのが実状である。われわれはこれまでに、慶應義塾大学整形外科・麻酔科及び星薬科大学薬理学研究室と共同研究チームで、AMED慢性の痛み解明研究事業にて術後疼痛のバイオマーカー探索研究を行い現在も進行中である。

本講演においては、これまで行ってきた研究の進捗状況、及び脊髄腫瘍の疫学データの概要、脊髄腫瘍診断におけるknack & pitfallについて概説したい。

辻収彦 先生

(東邦大学医学部整形外科学講座 大橋病院 講師)